

◇ 行政視察報告書 ◇

《提出者氏名》 吉田 尋子

委員会名	総務常任委員会	
委員名	[委員長] 吉田 尋子 [副委員長] 平田 聖治 [委員] 樋口 浩之 [委員] 小林 毅	[委員] 若井 睦巳 [委員] 谷尻 昌史 [委員] 仲村 学
視察先	福井県 小浜市	福井県 福井市
視察日	令和4年11月1日(火)	令和4年11月2日(水)
視察時間	午後1時30分～午後3時00分	午前10時00分～午前11時30分
調査事項	・小浜市地域公共交通計画について	・教育プランについて
行政視察をえ	<p>小浜市は、福井県嶺南地域の人口2万8千人、面積233km<sup>2</sup>の都市で、近年、本市と同様に人口減少ならびに少子高齢化が進んでいる。</p> <p>今年6月に「小浜市地域公共交通計画」を策定され取り組まれている。計画の策定にあたっては、市民の外出の状況や意識を把握するためにアンケートを実施、地域の実情に応じた交通手段・形態の検討をしている。</p> <p>具体的には、市街地に立地する駅・店舗・病院などの主要施設を回る公共交通として日常生活の中で、便利に利用できる「循環バス」を走らせる交通サービスの実験、利用の少ないコミュニティバス運行形態を見直しデマンド交通を取り入れる実験の2つに取り組み、利便性の高い公共交通を模索中であった。</p> <p>本市においても、ぐるりんバスや市営バス、デマンド交通などさまざまな手段を活用しながら、利便性の高い公共交通を目指しているが、市民のわかりやすく使いやすい公共交通のためには、市民の生の声を聞き、公共交通の方向性を計画的に見直す必要があると感じたところである。</p> <p>高齢者は交通弱者になりがちである。小浜市の、ふれあいサロンや地域に出向いて写真入りのわかりやすいリーフレットを使った説明など、市民に寄り添う職員の姿勢に感心した。</p>	<p>福井市は全国幸福度ランキングが5回連続1位で、教育に関するランキングも上位にある都市である。特に学校教育における取り組みが大変優れている。</p> <p>全国学力テストの結果が常に上位にあることでも知られているが、そこに至るまでの取り組みが秀逸であった。</p> <p>学力テスト結果を校長や指導主事による分析委員会において詳細に分析。各学校が自校においての結果や取り組むべき課題を明確にしていくための書き込み式分析シートを作成している。これによって各校が多角的に取り組むべきシステムが構築されている。学力テストの結果を、単なる点数としてとらえるだけでなく、次の取り組みへの資料とし具体的な手法へと結びつけている点が非常に重要であり、本市にかけている部分である。</p> <p>「郷土に誇りを持ち、たくましく生きる子どもの育成」を教育目標とし、①わかる授業づくり②ICTの活用③キャリア教育の充実④心づくり、体づくり⑤家庭・地域や中学校区との連携⑥居場所づくり、絆づくりの6つの柱をもとに指導をしている。系統的な縦のつながりに加え、地域に根差した横のつながり、心や体験、文化を結び合わせ、子どもたちの生きる力を育む学校づくりを目指している点も高く評価する。それぞれの内容に本気で取り組む教育委員会の姿勢こそが、結果を生んできたものと感じた。</p>

◇ 行政視察報告書 ◇

《提出者氏名》 平田 聖治

委員会名	総務常任委員会	
委員名	[委員長] 吉田 尋子 [副委員長] 平田 聖治 [委員] 樋口 浩之 [委員] 小林 毅	[委員] 若井 睦巳 [委員] 谷尻 昌史 [委員] 仲村 学
視察先	福井県 小浜市	福井県 福井市
視察日	令和4年11月1日(火)	令和4年11月2日(水)
視察時間	午後1時30分～午後3時00分	午前10時00分～午前11時30分
調査事項	・小浜市地域公共交通計画について	・教育プランについて
行政視察を終えて	<p>1. 小浜市民アンケートおよび聞き取り調査(調査結果の概要)</p> <p>(1) 外出先と交通手段</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・買い物や通院等の日常的な外出先は、中心エリアや自宅近くなど、市内が中心。</li> <li>・外出時の交通手段として、クルマ(運転、送迎・同乗)が極めて多い。公共交通を利用する人は少ない。</li> </ul> <p>(2) 公共交通の利用頻度</p> <p>「年に数日以下」や「乗ったことがない」という人が大半。</p> <p>(3) 公共交通の利便性に対する全体的な満足度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公共交通全体について、満足な人が1割未満と少ない。</li> <li>・そもそも乗らないので満足かどうかわからない。</li> </ul> <p>(4) バスへの改善の希望</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市街地の回遊性、便利な料金のしくみ、乗り継ぎや休日の便の調整、わかりやすさの改善。</li> </ul> <p>●公共交通の取り組みに前向きな考えの人が多い一方、後向きの考えの人や考えたことがない人もいる。</p> <p>■本市においても、地域・公共交通の現状や市民の外出等の実態・意識調査などを踏まえた上で、市民・利用者・交通事業者・行政などが一体となって、今後の取り組みの方向性を検討することが必要である。</p>	<p>福井市学校教育方針(令和4年度～令和8年度)学びをつなぐ・未来につなげる～「つながる」を大切にしたい学校づくり～</p> <p>1. 全国学力調査の結果分析と活用</p> <p>◆教育委員会では</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調査研究委員会(※校長、指導主事、教諭で編成)を開き、市全体としての結果を分析</li> <li>・課題に対する改善策を提案</li> </ul> <p>➡全国学力・学習状況調査結果分析リーフレット</p> <p>◆各小中学校では</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研究会等で学校の課題を分析</li> <li>・校内での改善策を検討、実践</li> </ul> <p>2. SASAとは(福井県学力調査)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福井県教育総合研究所が主体となって昭和26年(1951)から実施</li> <li>・平成19年(2007)から、毎年12月に小5、中2を対象に実施(調査結果を授業づくりに活かす)</li> </ul> <p>※この年から全国学力・学習状況調査がスタート(4月に小6、中3対象に実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市指導主事学校訪問(年間2回の計画訪問)</li> <li>・全教員(授業担当者)が授業を公開</li> <li>・全教員参加の研究協議会</li> <li>・福井市教職員研修(公務別・目的別研修)</li> <li>・教職大学院(福井大学)との連携</li> <li>・教科ごとの自主研究組織(部会、委員会)</li> <li>・自主サークルでの授業研究等に取り組みされている。</li> </ul>

◇ 行政視察報告書 ◇

《提出者氏名》 樋口 浩之

委員会名	総務常任委員会	
委員名	[委員長] 吉田 尋子 [副委員長] 平田 聖治 [委員] 樋口 浩之 [委員] 小林 毅	[委員] 若井 睦巳 [委員] 谷尻 昌史 [委員] 仲村 学
視察先	福井県 小浜市	福井県 福井市
視察日	令和4年11月1日(火)	令和4年11月2日(水)
視察時間	午後1時30分～午後3時00分	午前10時00分～午前11時30分
調査事項	・小浜市地域公共交通計画について	・教育プランについて
行政視察を終えて	<p>人口減少による公共交通利用者の減少や高齢者の移動手段確保等、これらの南丹市を含めた日本全国自治体の共通課題についての様々な取り組みについて説明を受けた。中でも期間を限定した「無料バス」の実証実験については大変興味深いところであった。これまでバスを利用していない層、言わばバス利用の潜在顧客に対しての利用意識醸成、また利用者増加に効果の可能性を感じるところであり、当市でも実現の可能性を探りたいところである。また無料バス実験と並行して行われた、既存のバス停ではない場所をバス停にする、バス停位置の実験についても、新たな移動経路を掘り起こしバス需要を高める可能性が感じられた。公共交通の利便性が向上し、利用者が増加すれば必然的に自家用車の稼働率が減少し、道路の維持コスト減少、また二酸化炭素の排出量減少など、様々な波及効果を生み出すことができる。</p> <p>今回の小浜市行政視察に於いて、最も感銘を受けたのは様々な実証実験からデータを得て論理的に検証する姿勢である。このような姿勢は特定の問題に対してだけでなく、様々な問題に対してアプローチすることができる問題解決の手法である。当市でも、積極的に取り組むべき手法であると考え。</p>	<p>全国に名高い福井式学校教育では市をあげて児童、教員両方への様々な取り組みがなされており、学力テストや体力テスト両方で沢山の子ども達が優秀な結果を残している。福井式教育の特徴は徹底的なデータ収集、またそれだけに留まらず、徹底的な分析を行うことにより、対策を講じるという点にある。これは学力面においてだけでなく、体力面においても、分かりやすい例を挙げると収集したデータから握力の低下という事象が見つければ、直ちに学校において手のひらを開け閉めするグーパー運動を行い握力の向上を目指す等である。</p> <p>これは先に視察した小浜市の取り組みと共通する点であると言える。それは学力テストの目的をデータ収集と捉え、徹底的に分析することで論理的に解決方法を導くという手法である。福井市の教育において優れている点は、このプロセスにある。またデータ分析能力と活用については、これまでの積み重ねにより磨かれてきたものであろう。ただ一つ気になる点をあげるならば、これらの取り組みにより、成績優秀な子供たちが増えていく中、取り残された子どもたちへの向き合い方が気になるところであった。学力と体力、データだけでは測れない非認知能力と呼ばれる能力などへの取り組みが今後の課題であろうと考える。</p>

◇ 行政視察報告書 ◇

《提出者氏名》 小林 毅

委員会名	総務常任委員会	
委員名	[委員長] 吉田 尋子 [副委員長] 平田 聖治 [委員] 樋口 浩之 [委員] 小林 毅	[委員] 若井 睦巳 [委員] 谷尻 昌史 [委員] 仲村 学
視察先	福井県 小浜市	福井県 福井市
視察日	令和4年11月1日(火)	令和4年11月2日(水)
視察時間	午後1時30分～午後3時00分	午前10時00分～午前11時30分
調査事項	・小浜市地域公共交通計画について	・教育プランについて
行政視察を終えて	<p>各自治体が、それぞれ模索しながら、地域公共交通のサービス提供にあたっている。近隣他県他市の状況がよくわかった。</p> <p>本市の市街地循環バス（ぐるりんバス）、デマンド交通のいっそうの利便向上、市営バス交通の利用拡大にむけて、具体化・具現化が求められる。</p> <p>もっとも身近なところで住民の方々に交通手段を提供している、現在南丹市内で11事業者が登録されている福祉（有償）運送への市の支援を強化し、部局を超えて連携し計画を確立していくことが必要と考える。</p>	<p>他県他市の教育行政についての見識を得ることは有益であり、良い機会であった。</p> <p>教育基本法にある通り、教育は、学校・教師が直接責任を負って行うものであり、教育行政の責務は、教育条件の整備拡充にこそある。</p> <p>今日、教師の超多忙が指摘され社会問題にすらなる中、いっそうの少人数学級への移行を土台に、子どもが楽しい学校、保護者が安心できる学校、教師が生き生きと力が発揮できる学校をめざし、議会人として役割を果たしていく思いを強くした視察であった。</p>

◇ 行政視察報告書 ◇

《提出者氏名》 若井 睦巳

委員会名	総務常任委員会	
委員名	[委員長] 吉田 尋子 [副委員長] 平田 聖治 [委員] 樋口 浩之 [委員] 小林 毅	[委員] 若井 睦巳 [委員] 谷尻 昌史 [委員] 仲村 学
視察先	福井県 小浜市	福井県 福井市
視察日	令和4年11月1日(火)	令和4年11月2日(水)
視察時間	午後1時30分～午後3時00分	午前10時00分～午前11時30分
調査事項	・小浜市地域公共交通計画について	・教育プランについて
行政視察を終えて	<p>・小浜市の人口は、小浜駅周辺の市街中心エリアに集中している。また、公共交通も小浜駅を発着点として、民営バス、コミュニティバス「あいあいバス」、タクシー等で構成されている。さらに小浜駅周辺に、病院や買い物ができる施設が多くある状況である。</p> <p>・公共交通のネットワークとして効率的でないなど、利便性やわかりやすさの向上が求められているようである。</p> <p>・上記の点を踏まえ、「デマンド交通実証実験」及び「市街地循環バス実証実験」が実施されている。</p> <p>・両方の実証実験において参考にしたいこととして、停留所一覧が、写真入りで非常にわかりやすいものになっている点である。特に高齢者にとってはわかりやすいのではないかと考える。</p> <p>・市街地循環バス実証実験においては、小浜駅周辺に病院や買い物のための施設が多くあるなど、南丹市の状況とは少し異なる点もあるが、駅を発着点として、主要施設を循環する公共交通というのは、参考にすべき事例ではないかと感じた。</p> <p>・両実証実験とも、料金は無料とのことであった。本格導入の際の料金設定によっては、実証実験時の利用率と違いが出てくる場合もあるのではないかと感じたところもあった。</p>	<p>・全国学力・学習調査の結果分析が非常に丁寧に行われていると感じた。自校の結果を福井市や全国の結果と比較し、取り組むべき課題を確認し、それに対する改善策などもしっかりと検討し実践するシステムになっている点は参考にすべきものと感じた。</p> <p>・福井県学力調査(SASA)が昭和26年から実施されているようで、それと全国学力・学習調査との間で、分析・改善そして実践をうまくまわしている点も素晴らしいと感じた。</p> <p>・市指導主事学校訪問、全教員参加の研究協議会、教員の力量向上研修、自主サークルでの授業研究など、教員が学ぶ機会、研究する機会を得られるよう多くの施策がとられている。この点については、教員の負担はかなり大きいのではないかと、不安になるところもあった。</p> <p>・学校だけではなく、地域で子どもを育てるという取り組みも多くされており、継続的に、そして計画的になされているところも参考にすべきところではないかと感じた。</p> <p>・全国学力・学習調査で常に上位という結果とは別に、子供たちが将来にわたって地域づくりに貢献できるようになることを目指しているという点は非常に共感できる。</p>

◇ 行政視察報告書 ◇

《提出者氏名》 谷尻 昌史

委員会名	総務常任委員会	
委員名	[委員長] 吉田 尋子 [副委員長] 平田 聖治 [委員] 樋口 浩之 [委員] 小林 毅	[委員] 若井 睦巳 [委員] 谷尻 昌史 [委員] 仲村 学
視察先	福井県 小浜市	福井県 福井市
視察日	令和4年11月1日(火)	令和4年11月2日(水)
視察時間	午後1時30分～午後3時00分	午前10時00分～午前11時30分
調査事項	・小浜市地域公共交通計画について	・教育プランについて
行政視察を終えて	<p>小浜市は人口約28,400人、面積233km<sup>2</sup>、福井県の南西部、若狭地域のほぼ中央に位置する。</p> <p>本年6月に「小浜市地域公共交通計画」を策定し、10月からデマンド交通、11月から市街地循環バスの実証実験を開始されている。</p> <p>デマンド交通実証実験は、期間・エリア限定・無料で運行し、利便性向上のために既存バス停36か所の他に44か所のバス停が追加され、専用システムや利用者アンケートから、利用状況や今後の利用意向・課題などの把握に努められている。</p> <p>市街地循環バス実証実験は、市街地に立地する駅、店舗、病院などの主要施設を回る公共交通がなかったことから、市街地における移動需要を把握し、公共交通サービスの運行形態の見直しを目的に無料で実施されている。小浜駅を中心に1日7便(1便40分)が市街地を回っており、利便性の高いサービスであると感じた。</p> <p>地方では人口減少や自家用車の利用が高く、非効率な運航路線も多くあることから、公共交通の再構築や延命からの発想転換が求められているが、小浜市では地域公共交通基礎調査や市民アンケート結果から、現状や問題点を整理し実証実験を実施するなど、小浜市地域公共交通計画で掲げる、「まちを育み、暮らしを支える公共交通」づくりが着実に進められていることを実感した。</p>	<p>福井市は人口約258,000人、面積536km<sup>2</sup>、福井県の北部に位置する県庁所在地。</p> <p>福井県は全国学調や体力テストが毎年、上位に位置し全国から教育先進県として注目されている。また、福井市では平成17年から保育園・幼稚園・小学校・中学校が連携して「中学校区教育」に取り組んでこられ、令和4年度～8年度の「福井市学校教育方針」にどう反映されているのか興味があった。</p> <p>*「全国学力・学習状況調査」は文部科学省が2007年度から小学6年生・中学3年生を対象に実施。</p> <p>*「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」は、2008年度から小学5年生・中学2年生を対象に実施。</p> <p>福井市の教育は系統性のある連続した学びを展開する「縦のつながり」と地域に根差した学びを展開する「横のつながり」に加え「体験・経験」「こころ」「文化・歴史・自然」など様々な「人・もの・こと」をつなぐことで学校教育を充実させています。</p> <p>特に、充実した授業展開や指導力向上に向けた様々な取り組みがあり、どれもPDCAサイクルがうまく機能している。</p> <p>また、SASA(県学力調査)が12月にあり、その結果を分析・改善・実践し4月の全国学調を迎える、学力調査を活かした継続的なサイクルも形成されており、大変参考になる研修となりました。</p>

◇ 行政視察報告書 ◇

《提出者氏名》 仲村 学

委員会名	総務常任委員会	
委員名	[委員長] 吉田 尋子 [副委員長] 平田 聖治 [委員] 樋口 浩之 [委員] 小林 毅	[委員] 若井 睦巳 [委員] 谷尻 昌史 [委員] 仲村 学
視察先	福井県 小浜市	福井県 福井市
視察日	令和4年11月1日(火)	令和4年11月2日(水)
視察時間	午後1時30分～午後3時00分	午前10時00分～午前11時30分
調査事項	・小浜市地域公共交通計画について	・教育プランについて
行政視察を終えて	<p>「小浜市地域公共交通計画について」を主題として、先ず、小浜市企画部 新幹線・交通まちづくり課の担当者の方から、計画の概要(地域および公共交通の現状、今後の取り組み施策等)について説明を受けました。小浜市の公共交通は、JR小浜線、民間の路線バス・タクシー、市のコミュニティバス等が運行されています。利用促進に向けて、これまで利用助成など種々の取り組みが行なわれましたが、近年の人口減少や車志向が高いことなどにより、利用客が減少しているのが現状とのことでしたが、一方で車を運転できない高齢者や中高生等の日々の移動手段として、公共交通の重要性は高まっていくものと考え、計画策定に至ったとのことでした。小浜市のコミュニティバスは平成14年に運行開始されていますが利用客、運賃収入は年々減少し、運行経費は横ばいが続いているとのこと、課題の抽出、運行形態の見直し等が行なわれ、視察時は、デマンド(予約型乗り合い移動)交通実証実験の最中でした。本市も同様の課題を抱えますが、小浜市の取り組みを参考にして利用者目線の公共交通の構築に努めなくてはならないと改めて感じました。</p>	<p>「教育プランについて」を主題として、福井市教育委員会の担当者の方から、福井市の学校教育の概要や教育委員会の取り組みについて説明を受けました。全国学力テストで北陸地方は、全体的に上位に位置付けされており、福井市の小中学生は、常に上位にランクされています。また全国体力テストに於いても福井の小中学生は上位にランクされており、正に文武両道を体現されています。その要因は、適正な規模で大規模校では徹底出来ない瀬策が行なえたり、また県民性や地域特性も教育レベルに大きく影響しているとのことでした。福井県は、共働き率が高く三世帯同居が多いそうです。親は子どもと接する時間が少ない分、学校との連携や先生への信頼が厚いようです。また目上の人を尊敬したり、大切にしている環境も学力や体力の向上に大きく影響しているようでした。また、教職員の目的別研修も数多く開催されていました。本市の小中学生の学力・体力の向上に向け、議会としても生徒たちにとってより良い環境整備に努めなくてはならないと感じました。</p>